

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要じょう乱の概要&gt;

- 台風第7号については最新の台風予報を参照。
- 26日は、低気圧が北日本付近を通過して日本の東に進み、前線が本州付近を南下する。
- 27日から28日は、低気圧が千島近海から千島の東へ進み、前線が日本の東から本州南岸を通過して東シナ海にのびる。
- 29日から30日は、高気圧がオホーツク海から日本の東へ移動する。前線が東シナ海から日本の南にのびる。太平洋高気圧が日本の南に張り出す。

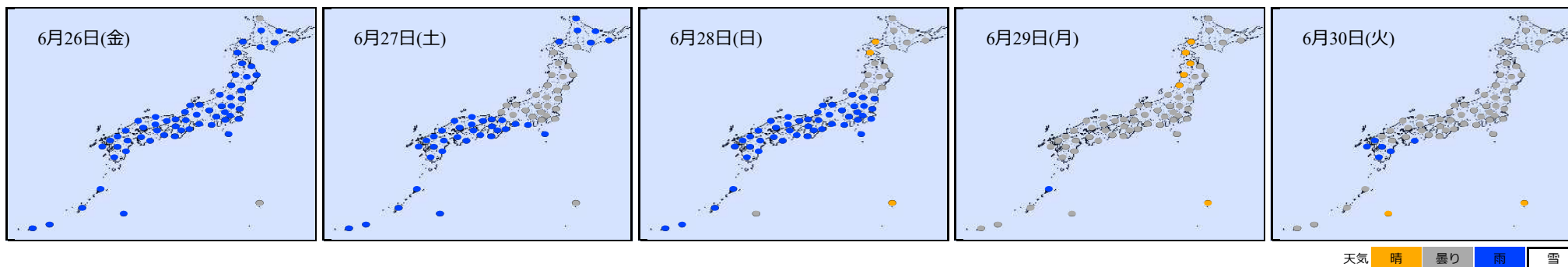
## &lt;防災事項&gt; 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 沖縄・奄美では25日から27日頃にかけて、西日本では27日から28日頃にかけて、台風第7号の影響で荒れた天気となり、台風の進路等によっては暴風や大しけ、警報級の大雨や高潮となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

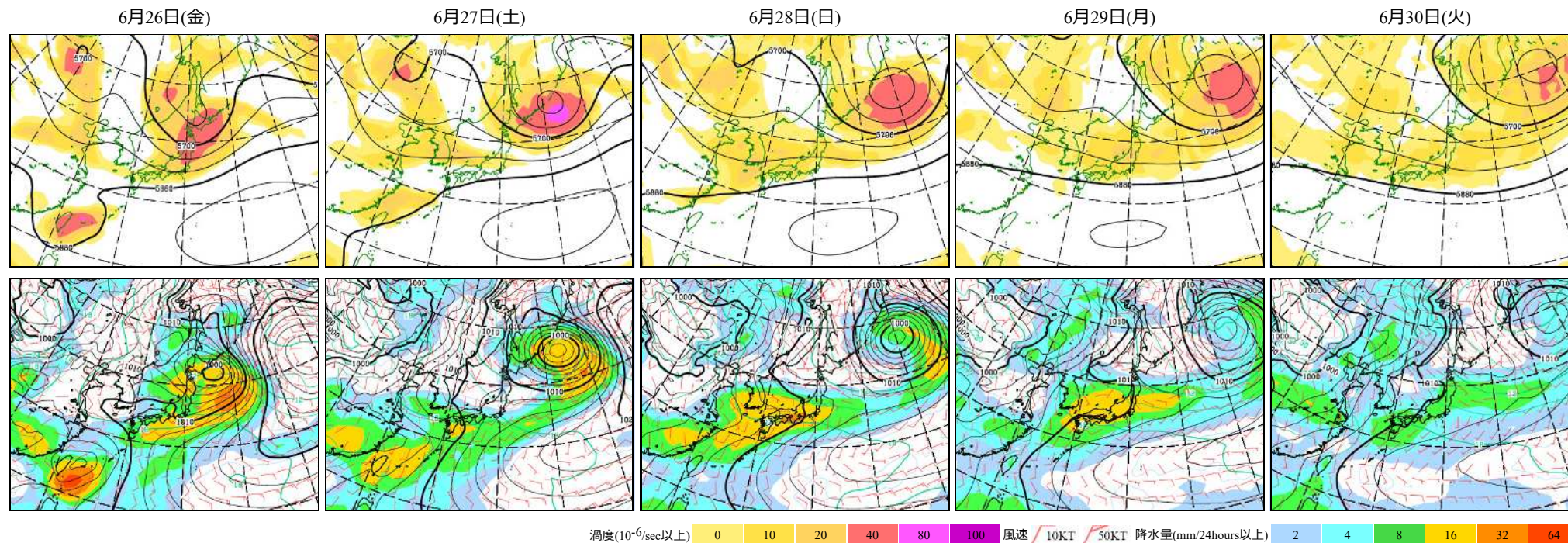
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

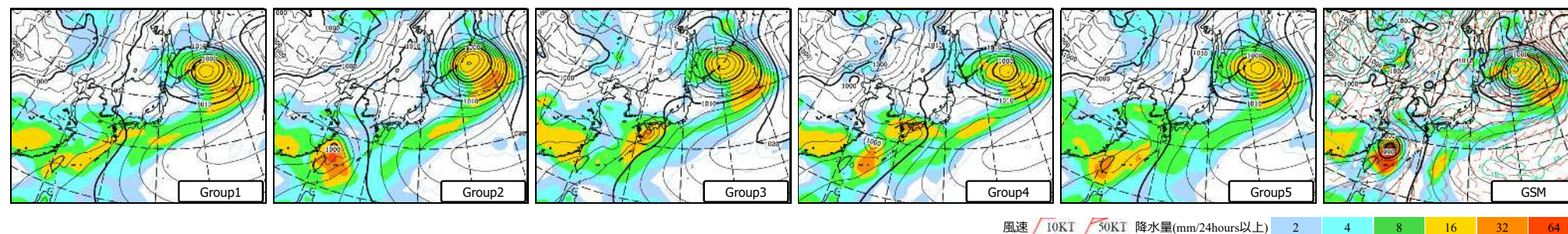


- 北日本は、雲が広がりやすく、26日から28日にかけては雨の降る所がある。
- 東日本と西日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多いが、30日は晴れる所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆6月27日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、26日から27日にかけて北日本を通過して千島近海へ進む低気圧の勢力が強まった。このため、26日から27日は北海道地方の降水確率ガイダンスの値が大きくなった。期間を通して太平洋高気圧の日本の南への張り出しが弱くなった。
- モデル間の差は、日本付近から北を通過するトラフやリッジについてはおおむね一致しているが、熱帯じょう乱の予想は期間の中頃から違いが見られる。
- スプレッドは期間の終わりで大きく、特定高度線のばらつきも大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、台風進路予報や最新のENSを基に考えるが、海外モデルも参考にする。